

わたしたちの「人権」

120

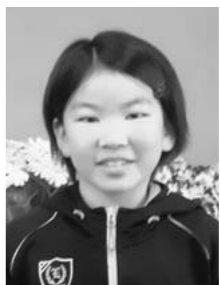
子どもたちの人権作文

だれもが人間として生きていくうえで「人権」が当然の権利。これが「人権」です。

12月の人権旬間にあわせて、子どもたちが書いた人権作文を先月号に続き、ご紹介いたします。今月は3名の作品を紹介します。

「人権学習があつてよかった」

矢部小学校 六年 藤田 夏綺さん



私は三年生のとき、「クレヨンはぬすんだんじゃねえ」の勉強をしました。この勉強が今でも心に残っています。

私は、この勉強をする前は、いやなことを言われたり、からかわれたりしてもがまんしていました。

「クレヨンにぬすんだんじゃねえ」を勉強して、クラスのみんなは、自分のことを言い出しました。

私は、名前を変えられていやだったことを言いました。みんなも、泣きながら、ばかにされたり、貧乏と言われていやだったことを発表していききました。それまで、そんなことをみんなに言うのは怖かったです。でも、一人が言ったことで、みんなが発表して、安心して自分も言っていんだと思いました。

発表した後、みんな、自分のいけなかったこと、言い返せなかったことを考えました。

みんな考えた後、これから嫌なことをされたり、言われたりしたら、絶対言い返すと決めました。

私は、この勉強で、クラスみんなが、傷ついたことがたくさんあったことを初めて知りました。それまでは、いやなことがあつたら先生に頼っていたけど、この勉強で、自分たちで話し合つて解決できるようになりました。

入学した時から今までで、「一番みんなが「変わった」と思いました。

五年生になつて、私の弟が入学しました。ある日、弟が学校から帰つて来て暗い顔をして帰ってきました。私は「何かあつたか」とたずねました。弟は「学校で友だちからいやなことをされる。」と言いました。私は「つらいだろうな。」と思つて、お母さん、お父さんと一緒に、その事について話し合いました。

どうすればいいか話し合つて、お母さんが教頭先生や担任の先生に話しに行き、弟は友だちと話し合いました。今、二年生になつ

た弟は、元気に学校に行っています。私は、「家族みんなで話し合つて、よかったな。」と思いました。

私の家は、飲食店です。私のお父さんは、肉を切つたりさばいたりします。肉は毛とがついてなくて小さく切つてあるのしか見たことがありません。魚は自分でさばいたことがあります。でも、お父さんが頭を取つて、内蔵やエラ、皮なども取つたものです。だから、今度は、お父さんに習つて、自分でやってみようと思いました。「動物や魚の命をもつて生きているから、感謝して食べなさん、残さず食べなさん。」と思いました。最初は、かわいそうと思つていただけ、みんなと話をして気持ちが変わりました。

私は、前田先生やみんなと人権学習をしてきました。人権学習があつたおかげで、自分のこと、友だちのこと、弟のこと、お父さんやお母さんのことを考えるようになりました。

人権学習をすると、自分の今まで思つていたことや考えていたことが変わつていきました。「人権学習があつてよかった。」です。

「人権学習をして考えたこと」

清和中学校 一年 奈須 雅俊さん



ぼくたち二年生は、一学期、友達のことを考えたり、ロールプレーを見て考えたりする学習をしました。

友達のことでは、男子と女子に分かれて、男子のいいところ、女子のいいところ、男子のなおしてほしいところ、女子のなおしてほしいところを出し合いました。

こういうふうに出し合つたことで、それぞれが、どう思つたのがわかり、自分はどういうところに気をつけて行動しようと思ふことができました。

そして、相手のことを理解することができてよかったです。ロールプレーでは、先生方がやってくださつたのを見て、おかしかったことをどうすればよかったのかを話し合いました。

ぼくは、このときちゃんと相手が話し終つてから、自分が思つたことを言えたいと思ひました。そして、人の話を聞かないで、そうじをさぼつたり、そうじの時間に注意しても、無視してどこかに行つたりするのはおかしかった。そんな時、ぼくは、ちよとイラツときます。だから、少し気をつけて友達と仲良く生活できるようにしたいです。

そして、全国中学生人権作文で、永さんという「しょうがい」をもった人のことについて書かれた作文を読みました。ぼくは、作文の中で、医者が永さんに対して「もう大学に行けない」と決めつけをしていたのがおかしかった。しかし、ぼく自身も気が付かないうちに、人を傷つけて、未来や希望を失わせているかもしれない。だから、これから言葉、表情、態度、視線に気を付けて、相手に自分の気持ちが伝わるようにしたいです。

永さんは、病気をもらつて生まれてきたかったわけじゃないので、病気のことからかわれる必要はないし、いやな気持ちになる必要もないと思います。そして永さんはからかわれたことがあつても、家族の支えで今を生きているので、かっこいいと思います。だから、ぼくもからかわれたりしても、相手に負けないで自分の思いや考えが伝わるようにしていきたいと思ひます。

ぼくは、差別されて命を絶つ人がいるのはかなしいし、つらいです。それは、差別で人が

亡くなるということがこわいし、さみしいからです。

ぼくは、差別があつて人が泣いていたら、「なんしょつとやめろー」と言います。そして、自分もされたら、負けずに自分の気持ちを言いたいです。それで、相手が別の人を差別するようになったら、「おかしいんじゃない？ いじめるつて。なぜ多くの人を犠牲にせんと？」と言つて、差別をなくせるような環境をつくつて、差別がなくなるようにしたいです。

差別は、差別で亡くなった人の家族や友達、知つている人など、たくさんの人までも悲しませてしまいます。一人ひとりの命は宝なので、差別によつてたつた一人でも亡くなつてはいけません。命は一つしかありません。だから一人ひとりが今の命を大切にすることをあります。

ぼくは、小学生の時に命についての勉強で自分にあてて手紙を書きました。その時、涙が流れました。なぜかという、人が亡くなる、自分が死ぬということがとても辛かったし、悲しかったからです。ぼくは死ぬことがこわいし、さみしいです。だからこそ命を大切にしたいです。

その大切な命を台無しにするのが差別です。二つの差別で、中学二年生であれば、十年の人生がたつた数秒で終わつてしまいかねないです。だから、差別は絶対ダメです。そして、一人ひとりが命を大切に、生きていってほしいです。

「現代の問題」

矢部高校食農科学科 三年 國武 咲希さん



私は小学生の頃から人権について考える機会が多くあり、身の回りで起つてくる差別がおかしいことだと人権教育を通じて学んできました。

人権教育を学んでいるのは、私達だけではないはずなのに、最近ではSNS内でのいじめなどが多く、問題となっています。

数年前までは、SNS内でのいじめなど耳にすることがなかったので、スマートフォンやアイフォーンの所有者が増加したことから増えてきた問題だと思ひます。このことから、家庭内での使用時間を決めたり、フィルタリングをかけるなどして、ネットいじめから自分自身を守ることが大切だと思ひます。身の回りで起つてくるネットいじめを他人事だとは思わずに、もし自分が被害者だつたらと考え、改めてスマートフォンやアイフォーンの使い方を見直す必要があると思ひます。

また、最近では改善されてきた履歴書にも以前は親の名前や、親の収入、家の大きさなど、就職試験にまったく関係のない質問が

あつたと知り、とても驚きました。現在の履歴書は住所や取得している資格のほかにも、趣味・特技などの欄があり、中でも資格を記入する欄と志望動機を記入する欄が広く取つてあり、その人をきちんとみてくれるような内容になつていっていると思ひます。

しかし、面接試験の中で本人とは関係のない質問をされる企業も少なくありません。本人とは関係のない違反質問をされる企業の方は、決してわざと質問されるわけではないと思ひますが、リラックスした会話の中では違反質問だと気づかないこともあります。また、集団面接のなかで違反質問をされた場合、前の人が答えていたら自分も答えないといけないういう気持ちになつてしまい、つい答えてしまつてケースも多くあると思ひます。もし、違反質問に答えてしまつても、学校の先生方が企業に連絡されまが、違反質問の回答で落ちたらどうしよう、私だけ答えてないから落とされるかもしれないという不安が大きくなると思ひます。

違反質問をされないことが一番ですが、もし違反質問されても動じずに指導されたとおりに答えることが大切だと思ひます。

このように差別をなくしていくためには、一人ひとりが差別ときちんと向き合い、どうすれば差別がなくなるのか考え、行動に移すことでネットいじめや、就職差別、そのほか身の回りで起きている差別をなくしていくことができると思ひます。